令和７年度　学校説明会　卒業生スピーチより

京都大学　法学部　77 期卒業生

皆様こんにちは。本日は学校説明会にお越しいただき、誠にありがとうございます。私からは卒業生として、茨木高校での経験についてお話しさせていただきます。中学生時代、私は「進学実績のあるところにいけたらいいな」とぼんやり考えてはいたものの、具体的な進路については中学３年生の初め頃まで上手くつかめずにいました。そうした中で、最終的な決め手となったのは、この学校説明会でした。勉強一筋だと思っていた進学校のイメージを覆す、自由で楽しそうな行事や先輩方の姿を目の当たりにし、「ここで高校生活を送りたい」と思い、本気で受験勉強に励むようになりました。

入学前は「生徒の自主性を重んじる自由な校風」と聞いて、日々の学習や生活の規律が緩やかになってしまうのではないかと心配していました。しかし、実際の授業は常に落ち着いており、和気あいあいとしながらも、互いに切磋琢磨できる環境でした。私は塾に通っていませんでしたが、先生方は質問に行けばいつでも丁寧に、時には個別の解説時間を設けてまで徹底的に向き合ってくださいました。このような手厚いサポートがあるからこそ、茨高生は部活や行事にも全力で挑戦することができます。

その中でも特に私を大きく成長させてくれたのは、生徒が主体となってゼロから企画・運営を行う学校行事です。私は宿泊野外行事の委員会に所属し、旅行会社からの提案をもとに、行程や事前学習の計画を一から自分たちで作り上げました。すべてを自分たちで決定する道のりは大変でしたが、最後までやり遂げたことで、大きな責任感を培うことができました。また、体育祭の団体演技で副リーダーを務め、チームをまとめるために奮闘したことも深く記憶に残っています。この行事を通じて信頼できる仲間が数多くできたことは、その後の受験期を共に乗り越える大きな支えとなりました。

このように、学校行事や日々の勉強を通じて身につけた「責任感を持ってやり通す力」や「集中力と忍耐力」は、現在の大学生活にも活きていると感じます。例えば、大学で所属している部活動の運営業務など、任された役割を最後まで全うできるのは、茨高での経験が土台にあるからだと思います。また、現在は法学部生として検察官という目標に向かって励んでいますが、高い壁に対して粘り強く挑戦し続ける姿勢も、茨高で仲間と切磋琢磨した時間の中で養われたものだと実感しています。

最後になりますが、私の拙い経験談が、皆様のこれからの進路選択において少しでも参考になれば幸いです。最後まで読んでいただき、誠にありがとうございました。